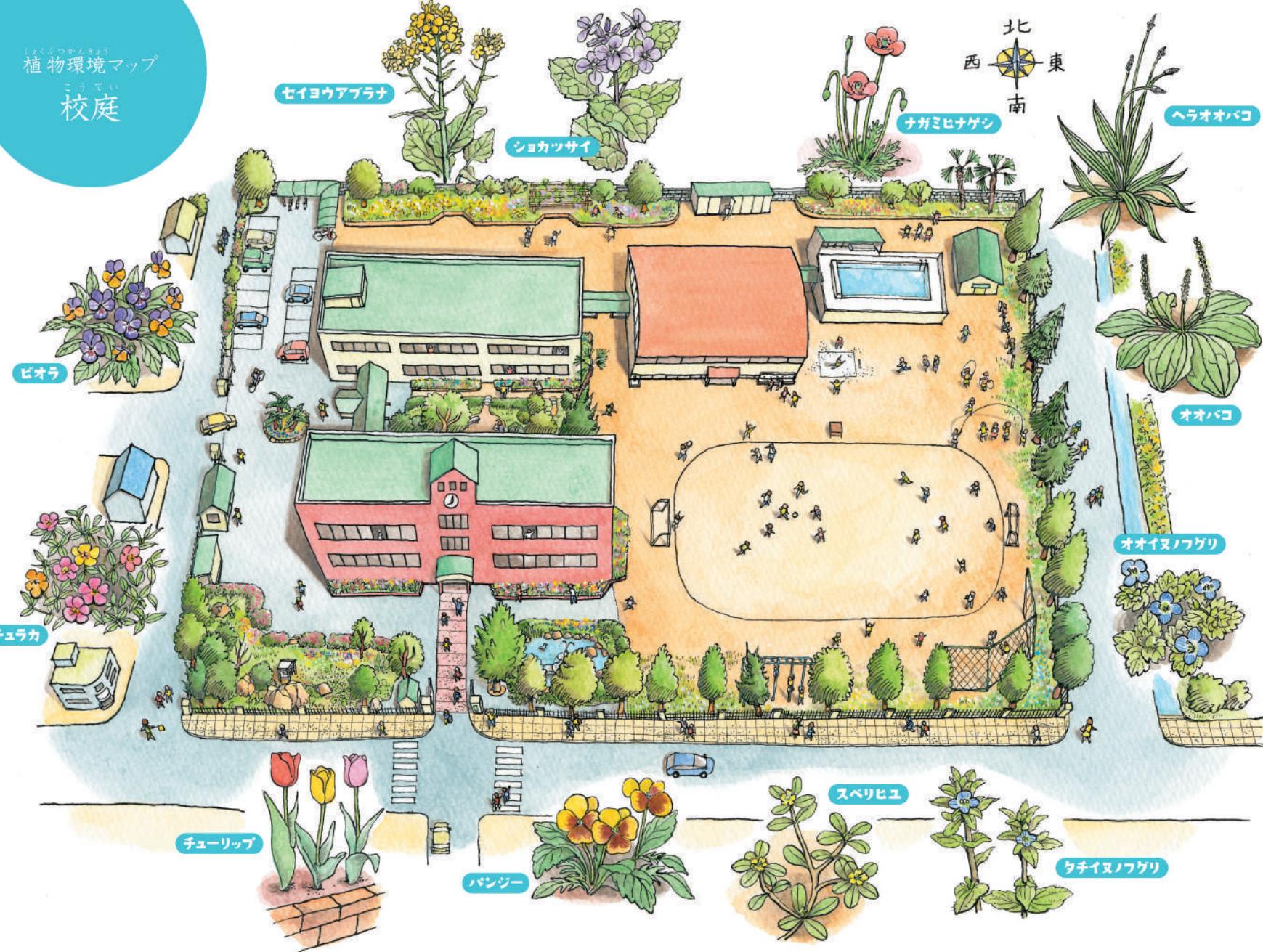


植物環境マップ
こうてい
校庭



学校はまるで街の環境のミニチュア版です。花壇には公園の植え込みのようにチューリップやビオラ、セイヨウアブラナやボーチュラカなどのきれいな花が植えられているのではないでしょうか。
みんなが元気よく走り回る日当たりのいい校庭には、街の駐車場や空き地にあるような踏まれ強いオオバコやオヒシバが、植え込みの木の下にはナガエコミカンソウやコニシキソウが、芝生にはニワゼキショウやネジバナが、日当たりのいい場所にはフェンス際にはナガミヒナゲシやヘラオオバコが、校舎裏の日陰にはドクダミが、といった具合です。そんな植物の中で、外国から来た植物はどれか調べてみましょう。

セイヨウアブラナ



油をとるために
世界中で栽培！

丸く大きめの花びらが十字形に並ぶのが
花の特徴。若い葉やつばみは食べられる。



アブラナは油菜

- 分類: アブラナ科・アブラナ属
- 花期: 1~5月
- 原産地: 北ヨーロッパ
- 渡来時期: 明治時代初期

外来種

日本では昔から、たねから菜種油をとるためにアブラナを作っていました。そこへ明治時代に、よりたくさんの油がとれる北ヨーロッパ生まれのセイヨウアブラナが入ってきてアブラナにとて代わりました。今ではそれが日本中に広がりました。



見分け方

茎の中ほどの葉をくらべてみると、セイヨウアブラナの葉はつけ根の部分が茎をまくように取り囲んでいるが、セイヨウカラシナの葉は茎を取り囲んでいない。



セイヨウアブラナ
セイヨウカラシナ

たねはマスター（からし）の原料だった！

セイヨウカラシナ

たねからからしを作るので芥子菜とよびます。日本には最初は弥生時代に中国から入ってきて在来種カラシナとなりましたが、その原種が明治時代に入ってきて野生化したのがセイヨウカラシナといわれています。川ぞいの土手に多く、全体に細身なのが特徴です。

花の形はX形かH形に見える。葉や若い茎は食用になり、辛味が特徴。



- 分類: アブラナ科・アブラナ属
- 花期: 2~6月
- 原産地: 中央アジア
- 渡来時期: 明治時代

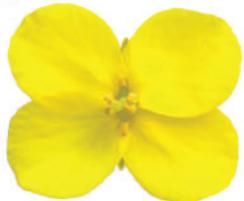
外来種



アブラナ

明治時代まではこの在来種のアブラナが菜種油の原料として育てられていましたが、今では油がより多くとれるセイヨウアブラナにとて代わられました。しかし葉は在来種の方がやわらかいので、今ではおもに葉やつぼみを食べる野菜として育てられています。

食べてみよう!



セイヨウアブラナ

花びらは丸く大きめ。がくは目立たない。



セイヨウカラシナ

花びらは細長く、色もいくらか淡い感じ。



アブラナ

花びらは丸いがやや楕円。がくが目立つ。



たねの直径は2mm弱。丸くて黒い。



たねの直径は1~1.5mm。赤茶色っぽい。



たねの直径は1.5~2mm。茶色っぽい。

葉はセイヨウアブラナ
のように灰色がからず、
色もやや明るめ。

- 分類:
アブラナ科・アブラナ属
- 花期: 12~4月
- 分布: 日本全土

在来種

ナノハナを咲かせる野菜

ナノハナとは菜の花、つまり菜っ葉の花という意味です。葉っぱやつぼみや根を食べているアブラナ科の野菜の多くは黄色いナノハナを咲かせます。



ブロッコリー



キャベツ



ハクサイ



カブ



ミズナ



紫色のナノハナ

ショカツサイ

発見

中国生まれの帰化植物で、日本ではあまり食べませんが、若い葉は食べられますし、たねから油もとれます。花が紫色で美しいので、花を楽しむために植えられたものが野生化もしています。



オオアラセイトウ、ハナダイコン、ムラサキハナなどの名でよばれることもある。

なかま
ナノハナの仲間
だいしゅうごう
大集合

キャベツ